

第2次南北海道定住自立圏共生ビジョン

平成31年1月

第1回変更：令和元年10月

第2回変更：令和2年11月

函館市

目 次

1	定住自立圏および市町の名称	1
	(1) 定住自立圏の名称	1
	(2) 圏域（北海道渡島・檜山圏域）を形成する市町の名称	1
2	定住自立圏共生ビジョンの目的	2
3	定住自立圏共生ビジョンの期間	2
4	圏域の概況	2
	(1) 当圏域の概況	2
	(2) 各市町の概況	3
	(3) 人口	9
	ア 人口の推移	
	イ 年齢3区分別人口および高齢化率の推移	
	(4) 個別分野の概況	10
	ア 医療	
	イ 福祉	
	① 障がい者福祉	
	ウ 産業振興	
	① 広域観光	
	② 地場産業	
	エ 交通ネットワーク等	
	オ 地域国際化	
	カ 人材育成等	
5	圏域の将来像	14
6	定住自立圏形成協定に基づき推進する政策分野と施策の体系	15
7	具体的取組内容と成果指標	16
	(1) 生活機能の強化	16
	ア 医療	
	① 初期救急医療体制の充実	
	② 広域救急医療体制の充実	
	③ 医療従事者の確保・養成	
	イ 福祉	
	① 障がい者福祉の充実	

ウ 産業振興	
① 広域観光の推進	
② 滞在型観光の促進	
③ 地場産業の育成	
(2) 結びつきやネットワークの強化	25
ア 地域公共交通	
① 圏域内における公共交通手段の維持および確保等	
イ 道路等の交通インフラの整備	
① 圏域内における交通ネットワークの形成	
ウ 地域内外の住民との交流・移住促進	
① 圏域における国際化の推進	
(3) 圏域マネジメント能力の強化	29
ア 人材育成等	
① 職員等の合同研修等の実施	
8 具体的取組に関する進捗状況の確認と評価	30
9 共生ビジョン事業一覧	31
南北海道定住自立圏共生ビジョン懇談会委員名簿	45

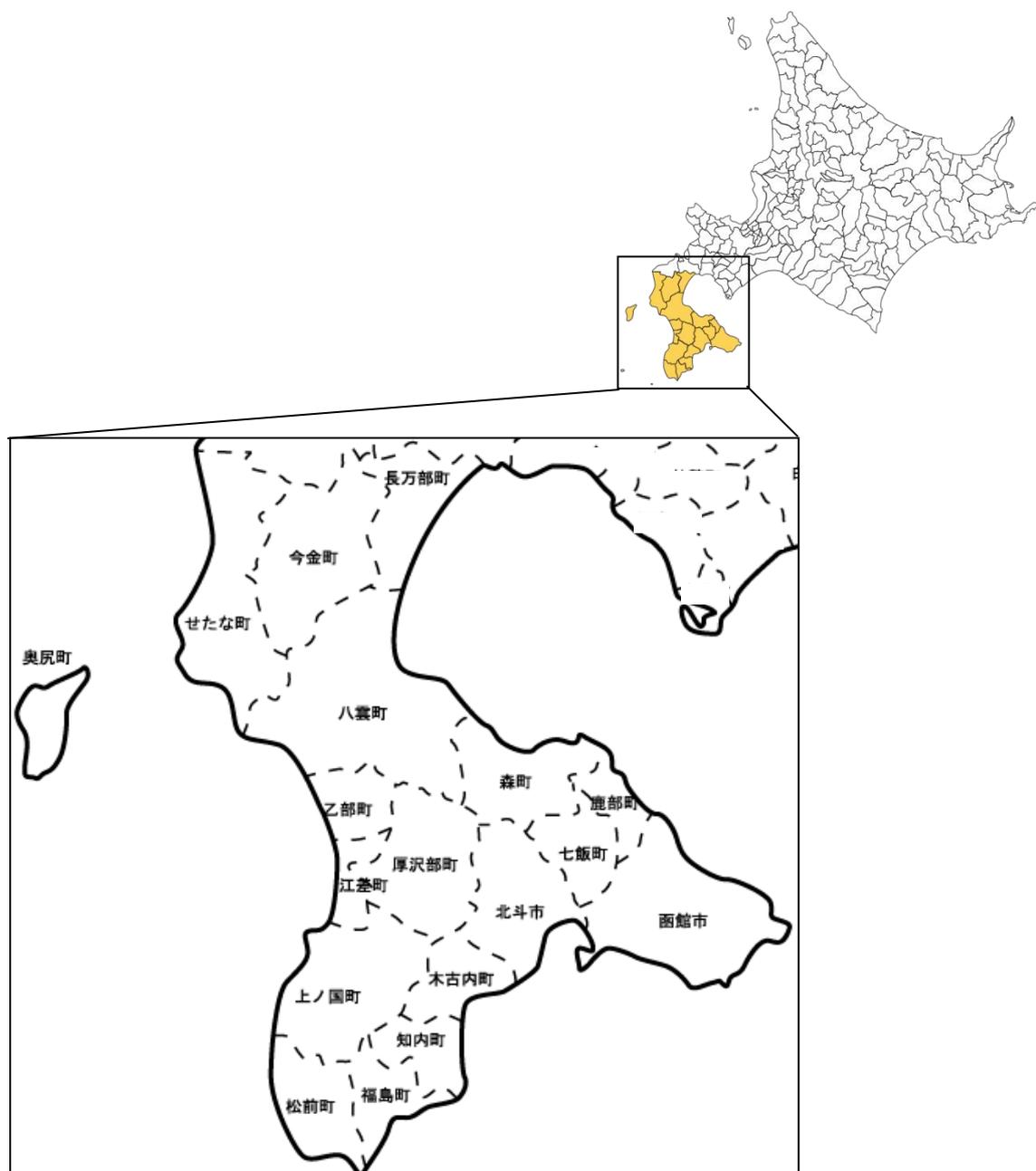
1 定住自立圏および市町の名称

(1) 定住自立圏の名称

南北海道定住自立圏

(2) 圏域（北海道渡島・檜山圏域）を形成する市町の名称

函館市（中心市）・北斗市・松前町・福島町・知内町・木古内町・七飯町・
鹿部町・森町・八雲町・長万部町・江差町・上ノ国町・厚沢部町・乙部町・
奥尻町・今金町・せたな町



2 定住自立圏共生ビジョンの目的

本共生ビジョンは、定住自立圏構想推進要綱（平成 20 年 12 月 26 日総行応第 39 号事務次官通知）第 6 の規定により、圏域の将来像や定住自立圏形成協定に基づき、関係市町が連携して推進する具体的な取組内容を明らかにするものです。

3 定住自立圏共生ビジョンの期間

2019 年度（平成 31 年度）から 2023 年度（令和 5 年度）までの 5 年間とします。
ただし、必要に応じて変更を行うものとします。

4 圏域の概況

（1）当圏域の概況

当圏域（渡島・檜山）は北海道の南西部に位置しており、総面積は 6,567.72 km²で、全道面積の約 8%を占めています。

2 市 16 町からなる当圏域は、風光明媚な自然と豊かな農林水産資源に恵まれ、北海道では最も早く道外から人が移り住んだ地域であり、北方開拓の歴史における大きな足跡を今に残しています。

また、経済活動や福祉、教育などの分野における、住民の通勤通学、買い物をはじめとした日常生活での結びつきはもちろんのこと、観光や医療における連携など、行政区を越えて多くの分野で相互に深い関係を築いている地域です。

総人口は平成 27 年の国勢調査で約 44 万人と減少傾向にあるほか、高齢化率は 32.9%と全道の 29.1%と比較して高く、国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計（平成 30 年 3 月推計）では 25 年間（2015（H27）年～2040（R22）年）で約 15 万 8 千人減少することが予想されるなど、今後の地域コミュニティの維持が大きな課題となっています。

(2) 各市町の概況

* 人口は H27 年国勢調査による

* 面積は R2 年全国都道府県市区町村別面積調による

函 館 市

人口：265,979 人 面積：677.87 km²



函館市は、津軽海峡に面した北海道の南端部に位置し、三方を海に囲まれ、函館山を要として扇状に広がる市街地を形成しています。

早くから陸・海・空の交通の要衝となり、国内外からの玄関口として、行政・経済・文化の中核都市としての役割を担ってきました。

北海道新幹線開業を新たなスタートと捉え、将来にわたり、活気とにぎわいあふれたまちづくりのための施策に取り組んでいます。

北 斗 市

人口：46,390 人 面積：397.44 km²



北斗市は平成 18 年 2 月、肥沃な大地と温暖な気候に恵まれ、漁業、農業、商工業を中心として発展してきた旧上磯町と旧大野町が合併し、道内 35 番目の市として誕生しました。渡島管内中部に位置し、南東部は大野平野、西部に渡島山地、南部は函館湾に面しています。

テクノポリス函館の一員として、積極的な企業誘致を推進し、一次産業と商工業のバランスがとれたまちを目指して発展してきました。

現在は、北海道新幹線新函館北斗駅のまちとして、北海道の玄関口、道南の交通拠点として開業効果が広く道南全域に及ぶよう様々なまちづくりを推進しています。

松 前 町

人口：7,337 人 面積：293.25 km²



松前町は、渡島半島西南端に位置し、西は日本海、南は津軽海峡に面し狭隘な海岸線に沿って国道 228 号が走り、これを中心に集落が形成されています。

春には、松前公園一帯に、早咲きから遅咲きまで約 1 か月間、250 種、1 万本の桜が咲き誇り、観光客の目を和ませてくれます。

江戸時代の名残を伝えるお城と街並み、松前沖で獲れる極上の本マグロと海産物など、現在は、豊かな食と歴史文化など松前の魅力アップを目指し、郷土愛と誇りの持てる住みよい協働のまちづくりを推進しています。

福島町

人口：4,422人 面積：187.25km²



福島町は、津軽海峡に面した北海道の南端に位置し、秀峰大千軒岳や変化に富んだ道南の知床と呼ばれる秘境の海岸線など、豊かな自然に恵まれています。

基幹産業は水産業で、昆布養殖等資源管理型漁業の推進によって、安定生産の拡大と付加価値向上を進めています。

現在は、地域の宝である子どもの子育てを地域全体で支援するための各種施策のほか、農林水産業の担い手支援事業など、「住んでいて良かった」、「これからも住み続けたい」、「住んでみたい」と思えるまちづくりを推進しています。

知内町

人口：4,653人 面積：196.75km²



青函トンネル北海道側出入口のまち。甘さ・やわらかさで人気を博している「知内ニラ」は年間販売額 10 億円を超える北海道を代表するブランドです。

また、津軽海峡の荒波にもまれて育つ「知内かき」は大きくて身が締まっているのが特徴。厳冬期に共に旬を迎える特産品を使った食のイベント「味な合戦冬の陣（カキ VS ニラまつり）」には、遠く札幌市からも大勢の来訪者をお迎えし

ています。他にハウレン草、トマト、マコガレイ、ホタテなど安全・安心でおいしい特産品づくりも自慢です。

さらに、町の 8 割を森林が占めこれまで利用が進まなかった未利用材等の地域資源を有効に活用して役場庁舎や温水プールの熱源として利用する「木質バイオマスエネルギー」活用の取組をはじめ、「地材地消」のまちづくりを推進しています。

木古内町

人口：4,547人 面積：221.87km²



木古内町は、北海道の南西部に位置し、道南杉に覆われた森を背景に、津軽海峡に面した自然豊かなまちです。昔から交通の要衝として栄えており、函館市・松前町・江差町へ向かう分岐点となっています。また、平成 28 年 3 月の北海道新幹線開業時には北海道最初の駅が設置されました。

現在は、北海道新幹線木古内駅開業を契機とした地域経済の活性化など、将来を見据え様々な施策を展開しながら、「活力と元気に満ちあふれ、生涯にわたり希望や生きがいを持ち続けられる北の大地の福祉都市『きこない』」を目指したまちづくりを推進しています。

七 飯 町 人口：28,120人 面積：216.75 km²



七飯町は、渡島半島南部に位置し、函館市の北側に隣接しています。

函館港の開港に併せ、明治時代には国の農業試験場である勸業試験場なども建設された北海道開拓の基礎となる西洋農法発祥の地であり、西洋りんごや男爵いもが日本で初めて栽培されました。

また、日本新三景の一つである大沼国定公園が平成24年7月にラムサール条約登録湿地となるなど、豊かな自然に恵まれ四季折々姿を変化させる壮大な景色は来る人を楽しませます。

現在は、北海道新幹線総合車両基地のまちとして、魅力的で活気が溢れるまちづくりを推進しています。

鹿 部 町 人口：4,226人 面積：110.63 km²



鹿部町は、渡島半島の東部にあり、駒ヶ岳山麓の一角に位置し、北東に太平洋内浦湾を望み、南東は函館市に、北西は森町に、南西は七飯町と接しています。

町内には、温泉も多く30か所以上の泉源があり、全国でも珍しい間歇泉のある町です。

現在は、“きらめく海・駒ヶ岳 うるおいの湯郷”をまちづくりのテーマに、「人が育ち、つながりを大切にするまち」「安心して暮らせるまち」「安全で住みよい美しいまち」「活気ある産業をはぐくむまち」などを目指したまちづくりを推進しています。

森 町 人口：15,946人 面積：368.79 km²



森町は、渡島半島南東部に位置し、北は噴火湾に臨み、東に北海道駒ヶ岳がそびえています。

昭和4年の駒ヶ岳大噴火、昭和36年の森町大火などの災害から力強く復興をとげ、駒ヶ岳山麓開発、濁川地熱開発、ホタテ養殖、港湾、漁港、道の駅や北海道縦貫自動車道開通、教育や福祉の充実などの取組を進め、平成17年4月1日に旧森町と旧砂原町が合併し、新「森町」となりました。

現在は、自然エネルギーの活用や災害に強い「まち」・地場資源を活用した「まち」など、全ての町民が、安心して暮らせることができるまちづくりを推進しています。

八雲町

人口：17,252人 面積：956.08 km²



八雲町は、渡島半島のほぼ中央部に位置しています。東は太平洋、西は日本海に面しており、日本の市町村としては唯一、2つの海に面する町です。札幌市と函館市を結ぶ主要幹線上に位置し、北海道新幹線の新八雲（仮称）駅の設置が予定されています。農業は酪農を中心に水田・畑作、漁業は噴火湾ではホタテの養殖、日本海ではアワビの養殖が中心となっています。

現在は、基幹産業の第一次産業だけでなく、北海道新幹線の延伸を見据えて、観光物産の振興に力を入れたまちづくりを推進しています。

長万部町

人口：5,926人 面積：310.76 km²



長万部町は、渡島半島内浦湾の最奥部に位置し、大部分が丘陵部と山地ですが、平地は湾に沿って南北に伸び、北海道内では、比較的雪の少ない温暖な気候です。

古くから道央と道南を結ぶ交通の要衝として重要な地点に位置しています。

北海道新幹線の長万部町への駅の設置が決まり、これからも道南北部の交通の要衝である本町は、内浦湾沿岸の中間地点、北海道行政圏境地域として、21世紀の交通拠点都市をめざしています。

江差町

人口：8,248人 面積：109.48 km²



江差町は、北海道の南西部に位置し、北海道文化発祥の地といわれ、北前船交易によりもたらされた江差追分などの伝統芸能や生活文化が数多く伝承されています。

江戸期のニシン漁最盛期で栄えた町「江差」の街並みを再現した「いにしえ街道」や、当時の問屋建築のまま残されている「旧中村家」、江差追分の実演が見学できる「江差追分会館」や町のシンボルである「かもめ島」など観光施設や町

歩きにも魅力のある町です。平成29年4月には、「江差の五月は江戸にもないーニシンの繁栄が息づく町ー」として北海道で初の『日本遺産』に認定されています。

現在は、北海道新幹線開業後の新函館北斗駅や木古内駅からの利用客を江差町に誘引する観光推進対策による市街地活性化などを目指したまちづくりを推進しています。

上ノ国町

人口：4,876人 面積：547.71 km²



上ノ国町は、檜山振興局管内の最南端に位置し、北部を流れる天ノ川流域に市街地と農業集落、日本海沿岸に漁業集落を形成しています。

古くは日本海北方交易の拠点として繁栄したことから、北海道最古の寺院・民家など多数の歴史的遺産を有しています。

現在は、地域経済の再生をはじめとする各般の施策に取り組ながら「創意工夫で地域の活力を起こし、だれもが安心して生涯健やかに暮らせるまち・上ノ国」を目指したまちづくりを推進しています。

厚沢部町

人口：4,049人 面積：460.58 km²



厚沢部町は、渡島半島の日本海側、檜山管内に位置し、三方を森林に囲まれ、清流厚沢部川をはじめとする河川流域に水田、丘陵地帯に畑地が拓けた農林業を基幹産業とする町です。

メークイン発祥の地として古くから農業の営みが続けられてきた厚沢部町では、安全で良質な農産物づくりに取り組んでいます。

現在は、移住交流事業などに積極的に取り組ながら、安全で安心して暮らせる「素敵な過疎のまち」を目指したまちづくりを推進しています。

乙部町

人口：3,906人 面積：162.59 km²



乙部町は、北海道南西部の日本海に面した町で、美しい海岸線と岬に沿って集落が続く農漁業が中心の町です。

自然の海を安全なプールにした「海のプール」や、縁結びの神が宿ると言われる連理の木「縁桂」、雄大な姿を見せる「館の岬」「鮪の岬」などが観光の柱。

また、歴史的には箱館戦争時の新政府軍（官軍）上陸の地として知られています。

現在は、産業振興や福祉の充実、防災対策など各般にわたり取り組むなど、夢と希望の持てる豊かで住み良い郷土乙部町の発展を目指したまちづくりを推進しています。

奥尻町

人口：2,690人 面積：142.99km²



奥尻町は、北海道南西部の日本海上に浮かぶ島で、北海道では5番目に面積の広い島です。島の面積の約8割がブナをはじめとする森林で覆われ、離島では珍しい米作りをはじめ、アスパラ、奥尻和牛、奥尻ワイン等の山の幸、そして豊富な海の幸など島ブランドが溢れています。

現在は、ムーンライトマラソンなど各種行事や島ブランドを生かした観光客の誘致やPRに取り組ながら、島ならではのゆったりとした時間の流れである「島じかん」を通じ、暮らす人も、訪れる人も笑顔あふれるまちづくりを推進しています。

今金町

人口：5,628人 面積：568.25km²



今金町は北海道南西部の檜山管内北部にある町で、総面積の約8割を山林が占めており、清流日本一の一級河川「後志利別川」が流れている、人口約5,600人の自然豊かなまちです。明治30年に瀬棚村（現：せたな町）から分村して「利別村」として自治制を施行して以来、道南圏随一の「農業のまち」として発展し、品質の高い農産物、特に全国ブランド「今金男しゃく」の産地として知られていま

す。

現在は、子育て支援、福祉の充実などに積極的に取り組みながら、「安全・安心な暮らしが保障され、輝く地域人・力強い地域産業を育てるまち・今金」を目指し、まちづくりを推進しています。

せたな町

人口：8,473人 面積：638.68km²



せたな町は、平成17年9月1日に旧大成町・瀬棚町・北檜山町が合併して誕生したまちです。農業・畜産業・水産業が盛んで、まちの中心部には清流日本一の一級河川後志利別川が流れています。

豊かで美しい自然と山海の幸、自然と笑顔があふれるふれあいの理想郷。色とりどりの四季、純朴な人々、穏やかに刻む時間。都会の喧騒から開放され癒される時間を過ごすこと

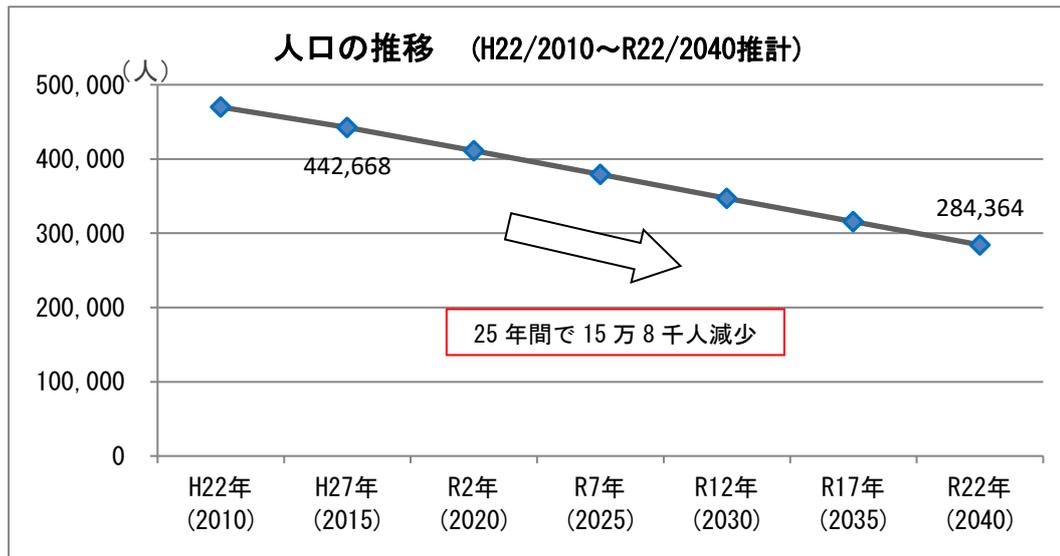
ができます。

現在は、将来に向かっての更なる飛躍と一層の一体感の醸成を目指し、町民からの提案を広く取り入れた協働によるまちづくりを推進しています。

(3) 人口

ア 人口の推移

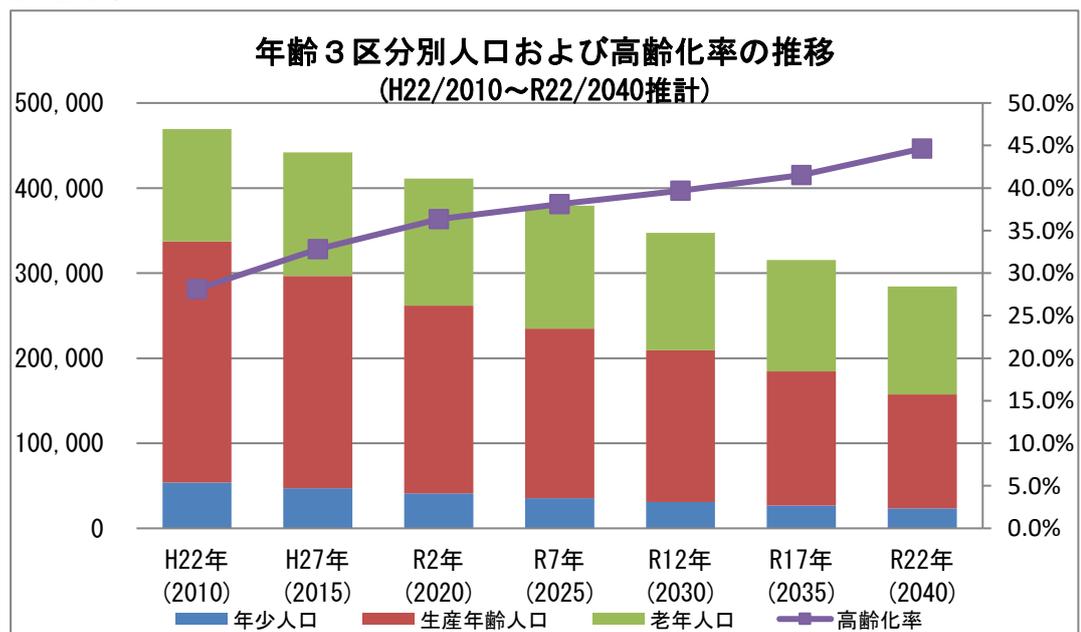
当圏域の人口は、減少傾向にあり、平成22年と平成27年の国勢調査結果での比較において、27,015人減少(5.8%減)しています。また、国立社会保障・人口問題研究所が発表した「日本の地域別将来人口推計(H30.3)」によれば、25年間(H27年～R22年)の間に約15万8千人の減少が見込まれるなど、人口減少による地域コミュニティの維持や地域経済の衰退が大きな課題となっています。



資料：国勢調査(2010-2015)，国立社会保障・人口問題研究所(2018)「日本の地域別将来人口推計」

イ 年齢3区分別人口および高齢化率の推移

人口が減少を続ける中において、老年人口の増加と生産年齢人口の大幅な減少が見込まれており、交流人口の拡大など、地域経済を維持させるための取組が急務となっています。



資料：国勢調査(2010-2015)，国立社会保障・人口問題研究所(2018)「日本の地域別将来人口推計」

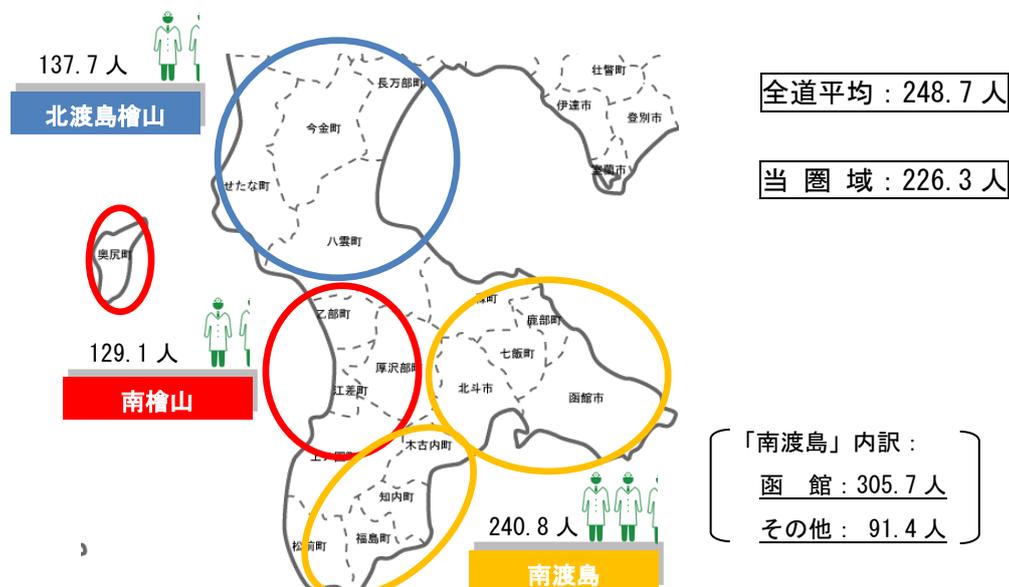
(4) 個別分野の概況

ア 医療

当圏域における人口 10 万人あたりの医師数は 226.3 人で、全道平均 248.7 人を下回っており、第二次医療圏別に見ると南渡島では 240.8 人と全道平均を若干下回っているのに対し、南檜山、北渡島檜山ではそれぞれ 129.1 人、137.7 人と大幅に下回っており、地域間の医療環境に大きな格差が生じています。

中心市にある市立函館病院は、南渡島、南檜山、北渡島檜山を合わせた三次医療圏（道南）の中核医療機関として、三次救急医療機関（救命救急センター）、ドクターヘリの基地病院、地域がん診療連携拠点病院、脳卒中の急性期医療を担う医療機関など様々な役割を担っているほか、三次医療圏内の他の自治体病院への医師派遣を行い、医療関係者同士のネットワーク形成に努めています。

<第二次医療圏別医師数>



資料：H28 北海道保健統計年報

イ 福祉

① 障がい者福祉

「地域生活を希望するすべての障がい者が安心して地域で暮らせる社会づくり」を進めるためには、相談支援を中心とする地域の実情に応じた地域生活支援体制の充実が必要です。

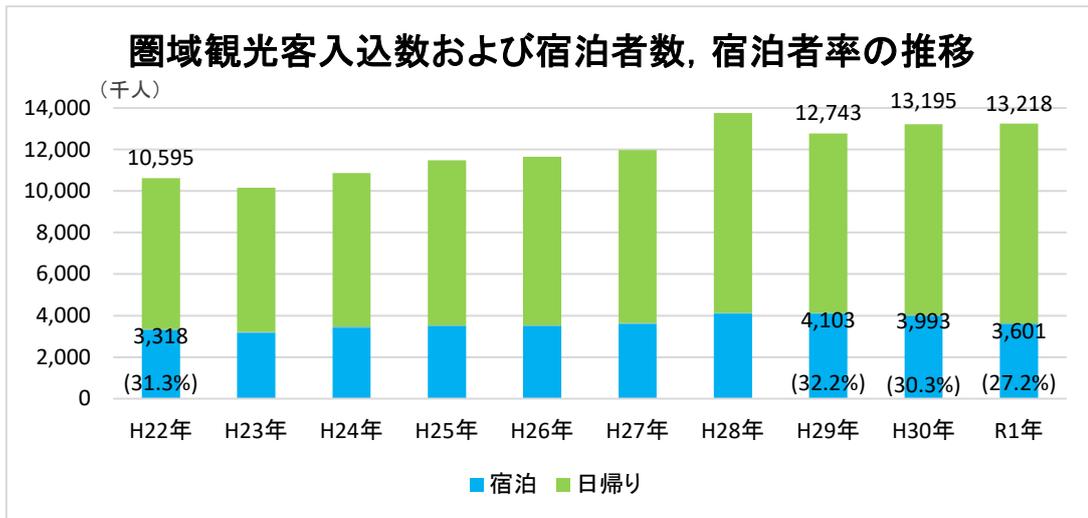
また、障がいのある人が自らの選択と決定により、自主的に行動し、その行動に責任を負うとともに、社会を構成する一員として社会、経済、文化その他のあらゆる分野の活動に参加し、生きがいを持って生活できるような地域づくりが必要です。

ウ 産業振興

① 広域観光

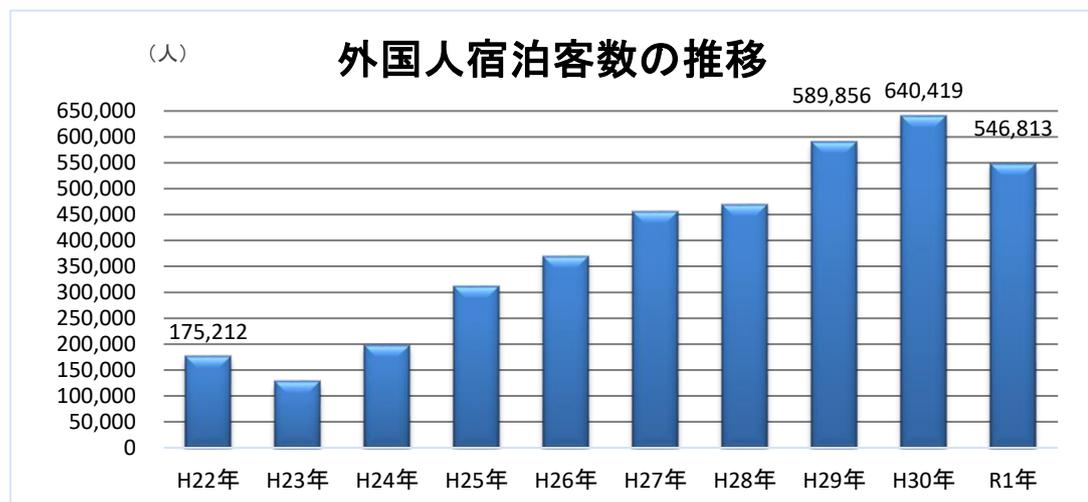
当圏域における観光入込客数は、平成 28 年度の北海道新幹線の開業効果も落ち着き、平成 29 年度は前年度比で減少しましたが、平成 30 年度以降はわずかながら増加に転じており、今後さらに観光客を呼び込むためには、当圏域における周遊観光の促進など広域的な取組が必要です。

一方、当圏域における平成 29 年度以降の観光入込客数に占める宿泊者数の割合である宿泊者率は、前年度比で減少が続いており、今後も、宿泊数を増加させ、消費単価を上げるための滞在型観光・広域観光に注力する必要があります。



資料：北海道経済部 北海道観光入込客数調査報告書

また、外国人観光客については、近年大幅な増加傾向にあり、当圏域においては、台湾からの観光客が大半を占めている状況でしたが、令和元年度は前年比で約 15%の減少となり、新型コロナウイルス感染症の世界的流行の影響と考えられます。今後は、国際的な人の往来の再開状況を注視しながら、外国人観光客の誘致について検討をしていく必要があります。



資料：北海道経済部 北海道観光入込客数調査報告書

② 地場産業

北海道人口ビジョンによると、2018（平成30年）における転出入状況では、当圏域は転出超過（▲2,696人）となっており、進学・就職等による札幌圏や首都圏への転出が主な要因と考えられています。

圏域内に人が定着するためには、地域経済の活性化を図り、安定的な所得が得られる就業の場を確保することが必要です。基盤となる産業の強化と雇用の拡大・創出を図るため、地域の資源を活かし、観光関連産業の振興や物産の販路拡大、起業化支援などの推進が求められています。

エ 交通ネットワーク等

当圏域においては、平成28年3月の北海道新幹線の開業によって、高速交通ネットワークの強化が図られましたが、圏域内相互での移動を容易にするための二次交通の取組が必要です。

また、交通ネットワークを移動手段としてのみ捉えるのではなく、将来的には、医療や福祉分野との連携など、これまでの枠にとられない取組についても検討していくことが求められます。

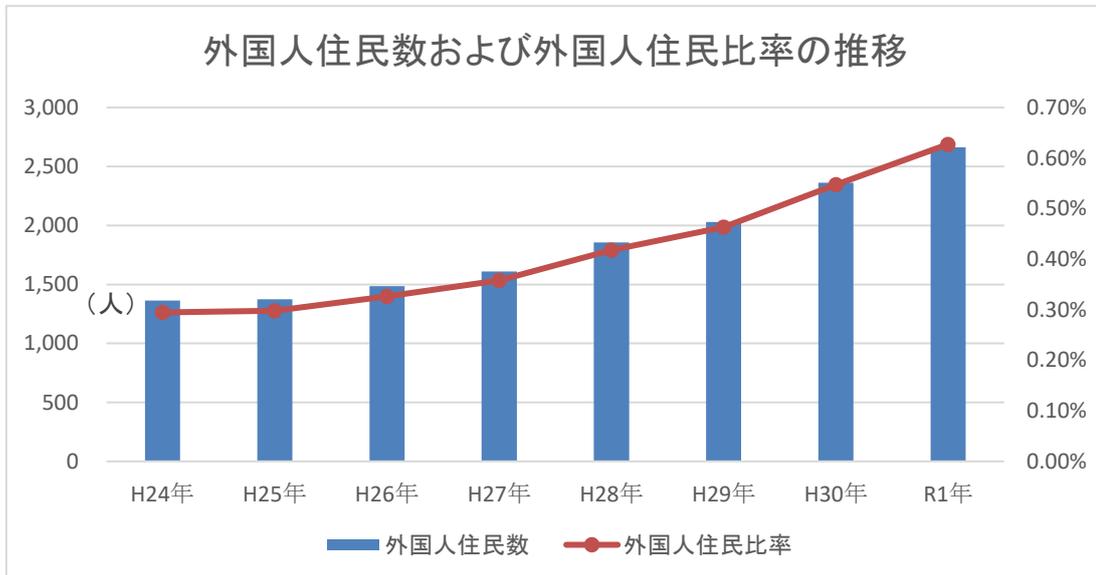
〔域内高速交通ネットワーク図〕



オ 地域国際化

外国人観光客の増加を背景として、その受入環境の整備が課題となっています。

ハード面での環境整備はもちろんのこと、圏域全体がコミュニケーション能力を向上することにより、外国人観光客や在住外国人が快適に過ごすことのできる環境を演出し、さらなる交流人口の増加を図ることが必要と考えられます。



カ 人材育成等

昨今の人口減少や高齢化など、社会・経済情勢の変化や住民ニーズの多様化に伴い、行政が担う役割は高度化・複雑化してきています。こうした中、地域資源を活用し、圏域のさらなる発展を図るため、自治体職員の企画・立案能力の向上や圏域内職員等の交流を深めることが重要となってきたことから、圏域内での職員研修情報の共有や、合同研修の実施など、リソースを効率的に活用することにより、圏域全体のマネジメント能力を向上させることが求められています。

5 圏域の将来像

当圏域を取り巻く情勢は、我が国の平均を上回る人口減少率や、急速な高齢化、生産年齢人口の減少、さらにはこれらに伴う経済活動の停滞化など大変厳しい状況に置かれています。

このような状況を打開し、中心市と連携市町がそれぞれの持つ個性を尊重しながら各種の連携を進め、以下の視点を持ちながらまちづくりを進めていく必要があります。

◆持続可能な圏域を形成するための3つの視点

医療・福祉体制の充実による「安全・安心」な定住環境の整備

- ・ドクターヘリ，初期・二次救急，医療情報共有，医療従事者の確保・養成，障がい者福祉の充実 など

交通ネットワークの整備による域内移動容易性の確保

- ・高規格道路等整備促進，第三セクター鉄道運行支援，生活バス路線の維持・確保 など

北海道新幹線開業による交流人口の拡大

- ・広域観光の推進，圏域における国際化の推進 など

これらの3つの視点に重きを置いた施策を継続的に展開しながら、次に掲げる圏域の形成を目指します。

◆当圏域が目指す将来像

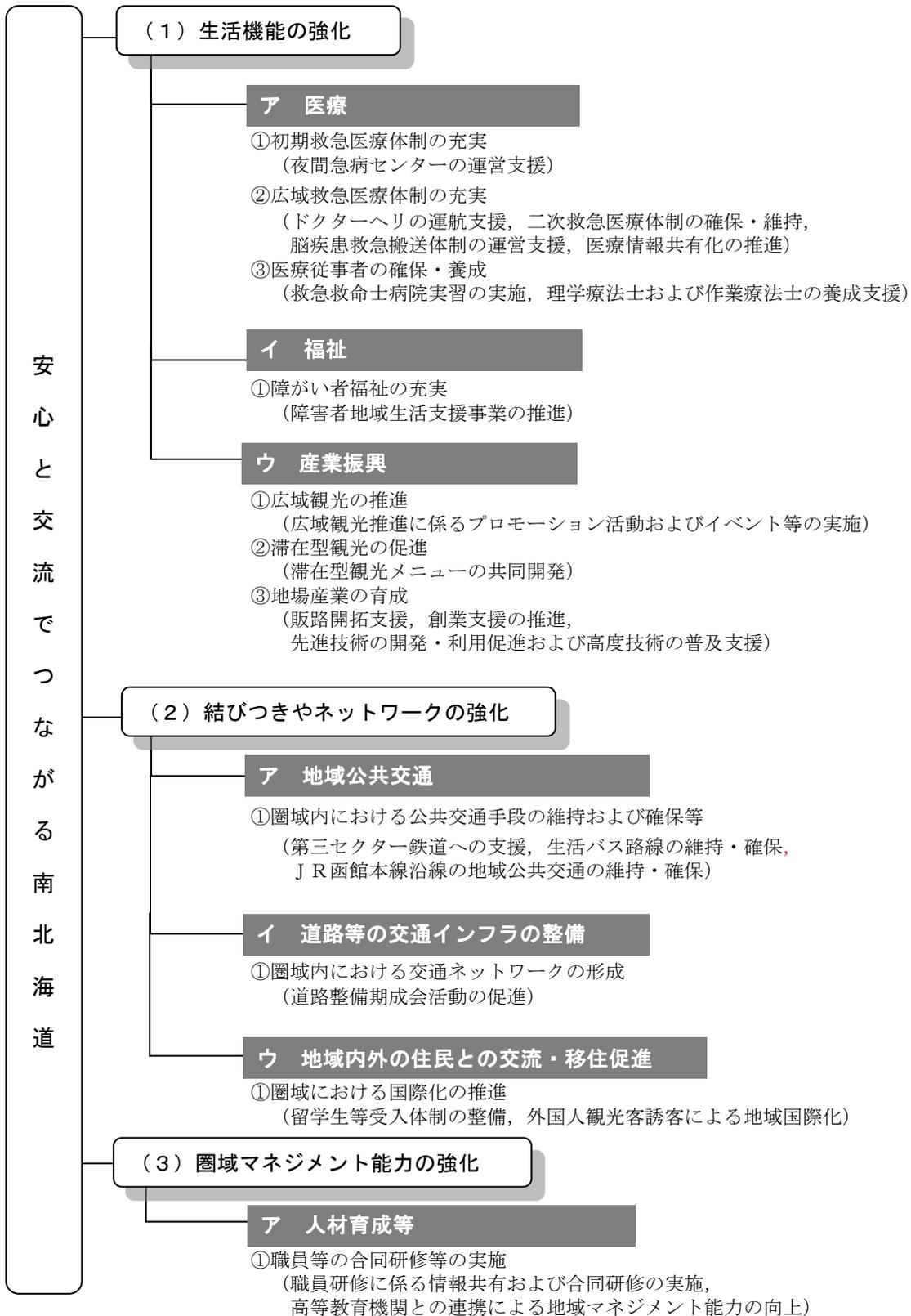
安心と交流でつながる南北海道

この将来像に基づく各種施策に取り組み、圏域内の将来人口の目標を以下のとおり設定します。

◆当圏域の人口ビジョン

区分	圏域内人口（人）	高齢化率（％）
2010（H22）年（国勢調査）	469,865	28.1
2015（H27）年（国勢調査）	442,668	32.9
2040（R22）年（目標）	320,000	40.0

6 定住自立圏形成協定に基づき推進する政策分野と施策の体系



7 具体的取組内容と成果指標

(1) 生活機能の強化

ア 医療

基本目標	圏域内の救急医療を安定的に提供する体制を整えます。				
数値目標	ドクターヘリの圏域内カバー率	基準値	2018 (H30)年	100%	
		現状値	2019 (R1)年	100%	
		目標値	2023 (R5)年	100%	

① 初期救急医療体制の充実

【形成協定】
圏域内における初期救急医療体制を充実させるため、函館市夜間急病センター運営をはじめとした各種事業に取り組む。

事業名	夜間急病センターの運営支援					関係市町
事業概要	関係市町が連携し、函館市夜間急病センターに対する運営支援を行う。					北斗市 七飯町
効果	夜間の初期軽症患者に対する医療体制を整えることにより、函館・北斗市民および七飯町民に対して、年間を通じた救急医療の提供が図られる。					
事業費 (千円)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	合計
	32,147	32,370	36,243	36,243	36,243	173,246
補助事業等の名称等	—					
役割分担の考え方	函館市、北斗市および七飯町が経費の一部を負担し、運営の支援を行う。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指 標	基準値	現状値	目標値		
	函館市夜間急病センター開設日数の維持	365日 2017 (H29)年度	365日 2019 (R1)年度	365日 2023 (R5)年度		

② 広域救急医療体制の充実

<p>【形成協定】 圏域内における広域救急医療体制の充実を図るため、市立函館病院におけるドクターヘリの運航支援をはじめとした各種事業に取り組む。</p>
--

事業名	ドクターヘリの運航支援					関係市町
事業概要	圏域全体を対象としたドクターヘリの運航支援を行うほか、必要な施設整備を行う。					全市町
効果	ドクターヘリの運航により、救命率が大幅に向上し、圏域全体の広域救急医療体制の充実が図られる。					
事業費 (千円)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
	63,857	56,335	56,335	56,335	56,335	289,197
補助事業等の名称等	-					
役割分担の考え方	ドクターヘリに係る設備投資負担は函館市が行い、運航に係る経費は全市町で負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指 標	基準値	現状値	目標値		
	事前選定冬期間使用可能ランデブーポイントの箇所数	50箇所 2018(H30)年度	55箇所 2020(R2)年度	2018(H30)年度より多い 2023(R5)年度		

事業名	二次救急医療体制の確保・維持					関係市町
事業概要	関係市町が連携し、圏域で行われる病院群輪番制に参加する医療機関に対する運営支援を行う。					北斗市 七飯町
効果	二次救急医療体制が確保・維持されることで、休日または夜間における入院治療を必要とする救急患者への医療の提供が図られる。					
事業費 (千円)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
	50,119	50,179	50,179	50,179	50,179	250,835
補助事業等の名称等	-					
役割分担の考え方	函館市、北斗市および七飯町が経費の一部を負担し、運営の支援を行う。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指 標	基準値	現状値	目標値		
	参加病院数	11病院 2018(H30)年度	11病院 2020(R2)年度	11病院 2023(R5)年度		

事業名	脳疾患救急搬送体制の運営支援					関係市町
事業概要	脳疾患救急患者の中心市基幹病院への搬送体制を支援を行う。					江差町 上ノ国町 厚沢部町 乙部町
効果	中心市の基幹病院と連携した医療施設を維持することにより、圏域の救急医療体制の向上に寄与する。					
事業費 (千円)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
	20,000	26,000	24,000	24,000	24,000	118,000
補助事業等の名称等	-					
役割分担の考え方	各市町において、医療機関維持に必要な費用を負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指 標	基準値	現状値	目標値		
	中心市の受入医療機関数	3 病院 2017(H29)年度	3 病院 2019(R1)年度	3 病院 2023(R5)年度		

事業名	医療情報共有化の推進					関係市町
事業概要	連携市町の医療機関（町立病院等）に情報共有のための設備（サーバー等）を設置し、中心市の基幹病院との間における医療情報の共有を推進する。					江差町 上ノ国町 厚沢部町 乙部町 奥尻町
効果	中心市と連携市町の医療機関が患者の医療情報を共有化することにより、個々のケースに即応した治療が可能となり、圏域全体の医療体制の充実が図られる。					
事業費 (千円)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
	45,857	98,115	20,675	20,675	20,675	205,997
補助事業等の名称等	-					
役割分担の考え方	医療情報共有化を行う市町において必要な費用を負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指 標	基準値	現状値	目標値		
	利用医療機関数	5 病院, 5 診療所 2017(H29)年度	5 病院, 5 診療所 2019(R1)年度	5 病院, 5 診療所 2023(R5)年度		

③ 医療従事者の確保・養成

<p>【形成協定】 圏域内における安定的な医療提供体制の維持を図るため、救急救命士をはじめとした医療従事者の確保・養成に取り組む。</p>

事業名	救急救命士病院実習の実施					関係市町
事業概要	圏域内の中核病院等において、救急救命士病院実習を実施することにより、救急救命士の技術・能力の維持・向上を図る。					全市町
効果	救急救命士の技術・能力の維持・向上により、圏域の救急医療体制の充実が図られる。					
事業費 (千円)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
	13,833	15,054	15,312	15,260	15,310	74,769
補助事業等の名称等	-					
役割分担の考え方	事業に参加する市町が必要な経費を負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指 標	基準値		現状値	目標値	
	圏域内の救急救命士の有資格者数	269人 2018(H30)年度		294人 2020(R1)年度	2018(H30)年度より多い 2023(R5)年度	

事業名	理学療法士および作業療法士の養成支援 ＜令和2年度新規登載事業＞					関係市町
事業概要	函館市医師会看護・リハビリテーション学院への運営支援を行うほか、奨学金による学生への支援により、圏域内における理学療法士および作業療法士の養成・確保を図る。					全市町
効果	理学療法士および作業療法士の養成と確保により、圏域の医療体制の充実が図られる。					
事業費 (千円)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
	-	5,940	6,940	7,940	7,940	28,760
補助事業等の名称等	-					
役割分担の考え方	函館市医師会看護・リハビリテーション学院の運営補助は函館市が行い、事業に参加する市町が奨学金に係る経費を負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指 標	基準値		目標値		
	卒業生の圏域内における理学療法士および作業療法士としての就職率	理学療法学科・作業療法学科からの最初の卒業生 (2022(R4)年度卒業) の就職率		2022(R4)年度より多い 2023(R5)年度		

イ 福祉

基本目標 圏域内の障がい者（児）の自立と社会参加を促進します。

① 障がい者福祉の充実

【形成協定】

圏域内における，障がい者（児）の自立と社会参加を促進するため，地域生活支援事業をはじめとした各種事業に取り組む。

事業名	障害者地域生活支援事業の推進					関係市町
事業概要	障害者総合支援法に基づき障がい者の自立と社会参加を促進するため，基幹相談支援センター事業，手話・要約筆記者等派遣事業，地域活動支援センター事業など各種相談・支援事業を社会福祉法人やNPO法人等に委託し実施する。					北斗市 七飯町
効果	地域における相談支援体制をはじめ，障がい福祉サービスの充実が図られる。					
事業費 (千円)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
	106,632	114,511	114,511	114,511	114,511	564,676
補助事業等の名称等	－					
役割分担の考え方	函館市，北斗市および七飯町が経費の一部を負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指 標	基準値	現状値	目標値		
	基幹相談支援センターにおける相談支援人数	695人 2017(H29)年度	680人 2019(R1)年度	2017(H29)年度 より多い 2023(R5)年度		

ウ 産業振興

基本目標	圏域の産業振興のため、観光入込客数の増加を目指します。				
数値目標	圏域内の観光入込客数	基準値	2017 (H29)年度	1,274 万人	
		現状値	2019 (R1)年度	1,321 万人	
		目標値	2023 (R5)年度	1,453 万人	

① 広域観光の推進

<p>【形成協定】 圏域が協働し、国内外に対する観光PRイベントをはじめとした各種プロモーション活動等に取り組む。</p>

事業名	広域観光推進に係るプロモーション活動およびイベント等の実施					関係市町
事業概要	国内外の観光客誘客促進を図るため、各種プロモーション活動およびPRイベントを実施する。 道の駅や観光交流施設を活用し、PRを実施する。					全市町
効果	圏域全体の知名度向上が図られ、交流人口の拡大が期待できる。					
事業費 (千円)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
	127,696	97,399	118,107	118,107	118,107	579,416
補助事業等の名称等	-					
役割分担の考え方	事業に参加する市町が必要な経費を負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指 標	基準値	現状値	目標値		
	プロモーション活動実施回数	国内 177 回 海外 19 回 2017 (H29) 年度	国内 187 回 海外 16 回 2019 (R1) 年度	累計 (延べ) 国内 900 回 海外 100 回 2019 (R1) ~ 2023 (R5) 年度		

② 滞在型観光の促進

【形成協定】
 圏域内での周遊性を高め、滞在日数の増加を図るための観光メニュー開発等に取り組む。

事業名	滞在型観光メニューの共同開発					関係市町
事業概要	各市町が連携し、それぞれの特色を活かした滞在型観光メニューを開発する。					全市町
効果	具体的な観光メニューを直接旅行会社にアピールすることで商品化を加速することができる。					
事業費 (千円)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
	10,698	9,375	8,873	8,873	8,873	46,692
補助事業等の名称等	-					
役割分担の考え方	事業に参加する市町が必要な経費を負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指 標	基準値	現状値	目標値		
	観光入込客数に占める宿泊者数の割合	32.2% 2017(H29)年度	27.2% 2019(R1)年度	2017(H29)年度 より多い 2023(R5)年度		

③ 地場産業の育成

【形成協定】
圏域内の地場産業の育成を図るため、販路開拓支援をはじめとした各種事業に取り組む。

事業名	販路開拓支援					関係市町
事業概要	国内外の百貨店や食品スーパーにおける物産展やフェア等の開催、函館市アンテナショップの運営等の事業をとおり、圏域内の企業の販路開拓を支援する。					全市町
効果	圏域内の企業の販路開拓を支援することにより、地場産業の育成が図られる。					
事業費 (千円)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
	23,900	23,343	23,576	23,576	23,576	117,971
補助事業等の名称等	-					
役割分担の考え方	中心市は、商談会等の調整および必要な経費を負担し、関係市町は商談会情報の周知を行う。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指 標	基準値	現状値	目標値		
	物産展・フェアの開催回数	10回 2017(H29)年度	10回 2019(R1)年度	10回 2023(R5)年度		

事業名	創業支援の推進					関係市町
事業概要	函館市、北斗市および七飯町が相互に連携をとり、(公財)函館地域産業振興財団とともにビジネスプラン作成スクール等の創業支援事業を実施する。					北斗市 七飯町
効果	国や地域の創業支援機関と連携し創業支援を強化することにより、地場産業の育成が図られる。					
事業費 (千円)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
	11,305	16,333	16,333	16,333	16,333	76,637
補助事業等の名称等	-					
役割分担の考え方	函館市、北斗市および七飯町が経費の一部を負担し、財団と連携して事業を実施する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指 標	基準値	現状値	目標値		
	創業者数	累計60件 2015(H27)年度～ 2017(H29)年度	30件 2019(R1)年度	累計245件 2019(R1)年度～ 2023(R5)年度		

事業名	先進技術の開発・利用促進および高度技術の普及支援					関係市町
事業概要	(公財) 函館地域産業振興財団が実施する地域企業の技術の高度化に資する先進技術の研究開発および高度技術の普及等に係る事業を支援する。					全市町
効果	関係市町の企業が先進技術および高度技術を活用することにより、地場産業の育成が図られる。					
事業費 (千円)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
	92,309	100,325	104,194	104,194	104,194	505,216
補助事業等の名称等	-					
役割分担の考え方	函館市が経費の一部を負担し、関係市町は地域企業への利用を促す。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指 標	基準値	現状値	目標値		
	圏域内企業を対象とした個別相談実績	平均 388 件 2014(H26)年度～ 2018(H30)年度	673 件 2019(R1)年度	累計 1,950 件 2019(R1)年度～ 2023(R5)年度		

(2) 結びつきやネットワークの強化

ア 地域公共交通

基本目標	バス事業等を支援し、圏域内住民の移動手段の維持・確保を図ります。				
数値目標	乗合バス事業収支率	基準値	2017(H29)年度：71.7%		
		現状値	2019(R1)年度：66.1%		
		目標値	2023(R5)年度：81.1%		

① 圏域内における公共交通手段の維持および確保等

【形成協定】
圏域内における公共交通手段を維持・確保しながら利用促進を図るための事業に取り組む。

事業名	第三セクター鉄道への支援					関係市町
事業概要	五稜郭～木古内間における第三セクター鉄道への支援を連携して行う。					北斗市 木古内町
効果	地域公共交通の維持・確保が図られる。					
事業費 (千円)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
	31,591	39,525	39,525	39,525	39,525	189,691
補助事業等の名称等	-					
役割分担の考え方	各市町が必要な経費を負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指 標		基準値	現状値	目標値	
	1日の運行本数 (上下計)		37本 2017(H29)年度	38本 2019(R1)年度	37本 2023(R5)年度	

事業名	生活バス路線の維持・確保					関係市町
事業概要	圏域内を結ぶ路線バス等の生活路線の維持・確保を図るため、運行事業者に対する支援等を行う。					全市町
効果	圏域内における路線バス等の利便性向上により、住民が連携市町の病院・商業施設等や中心市の都市機能を広域的に利用することができ、日常生活に必要な交通手段の維持・確保が図られる。					
事業費 (千円)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
	202,678	190,205	179,716	207,339	177,281	957,219
補助事業等の名称等	-					
役割分担の考え方	各市町が必要な経費を負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指 標		基準値	現状値	目標値	
	路線バスの利用者数の増減率(A)と人口増減率(B)の差		A(+1.6%)> B(-1.35%) 2017(H29)年度	A(+0.6%)> B(-1.55%) 2019(R1)年度	A≥B 2023(R5)年度	

事業名	J R 函館本線沿線の地域公共交通の維持・確保 ＜令和2年度新規登載事業＞					関係市町
事業概要	2030年度末に予定されている北海道新幹線の札幌開業に伴い、J R 北海道から経営分離される函館本線沿線の地域公共交通の確保等に向けた取組を行う。					北斗市 七飯町 鹿部町 森町 八雲町 長万部町
効果	地域公共交通および圏域内相互ネットワークの維持・確保が図られる。					
事業費 (千円)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
	—	9,459	—	—	—	9,459
補助事業等の名称等	—					
役割分担の考え方	各市町が必要な経費を負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指 標	基準値			目標値	
	J R 北海道から経営分離される函館本線沿線の地域公共交通の維持・確保に向けた取組の実施	2020(R2)年度に実施した取組			取組が継続されていること 2023(R5)年度	

イ 道路等の交通インフラの整備

基本目標	幹線道路の整備に戦略的に取り組みます。		
数値目標	道路整備期成会要望活動回数	基準値	2017(H29)年度：4回
		現状値	2019(R1)年度：4回
		目標値	2023(R5)年度：4回

① 圏域内における交通ネットワークの形成

【形成協定】
圏域内における効率的な交通ネットワーク形成に向け、高規格道路等、交通インフラ整備促進のための各種事業に取り組む。

事業名	道路整備期成会活動の促進					関係市町
事業概要	圏域内における基幹道路等、交通インフラ整備促進のための道路整備期成会活動を促進する。					全市町
効果	道路整備期成会活動の活発化により、圏域内の交通インフラ等の整備促進が図られる。					
事業費 (千円)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
	10,631	10,687	10,688	10,688	10,688	53,382
補助事業等の名称等	—					
役割分担の考え方	各市町が必要な経費を負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指標	基準値	現状値	目標値		
	道路整備期成会の組織数	4期成会 2017(H29)年度	4期成会 2020(R2)年度	4期成会 2023(R5)年度		

ウ 地域内外の住民との交流・移住促進

基本目標	地域の活性化のために多文化共生を促進し、外国人の受入体制の充実を図ります。				
数値目標	外国人住民の人数	基準値	2018(H30)年:2,029人	現状値	2020(R2)年:2,664人
		目標値	2023(R5)年:2023年≧2018年		

① 圏域における国際化の推進

【形成協定】 圏域内の国際化を推進するための各種事業に取り組む。

事業名	留学生等受入体制の整備					関係市町
事業概要	国際交流団体等が主催する事業に対するサポート体制を構築する。					全市町
効果	留学生等受入事業が活発化することにより、地域住民との交流が図られ、地域の国際化が推進される。					
事業費 (千円)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
	25,547	21,893	26,580	21,893	26,580	122,493
補助事業等の名称等	-					
役割分担の考え方	事業に参加する市町が必要な経費を負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指 標	基準値	現状値	目標値		
	外国人住民のうち在留資格等の区分が「留学」の人数	126人 2018(H30)年	122人 2020(R2)年	2018(H30)年より多い 2023(R5)年		

事業名	外国人観光客誘客による地域国際化					関係市町
事業概要	外国人観光客の受入体制充実を図り、交流人口の拡大に努めながら、地域の国際化を推進する。					全市町
効果	外国人観光客受入環境の整備により、交流人口の拡大が図られる。					
事業費 (千円)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
	18,613	20,430	20,768	20,120	18,900	98,831
補助事業等の名称等	-					
役割分担の考え方	各市町において、事業に必要な経費を負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指 標	基準値	現状値	目標値		
	外国人宿泊客数	約59万人 2017(H29)年度	約55万人 2019(R1)年度	2017(H29)年度より多い 2023(R5)年度		

(3) 圏域マネジメント能力の強化

ア 人材育成等

基本目標	合同研修等により効率的な人材育成に取り組みます。				
数値目標	合同研修参加自治体数	基準値	2017(H29)年度	17	
		現状値	2020(R1)年度	17	
		目標値	2023(R5)年度	18	

① 職員等の合同研修等の実施

【形成協定】
圏域内市町職員等の資質の向上を図るため、合同研修等をはじめとする各種事業に取り組む。

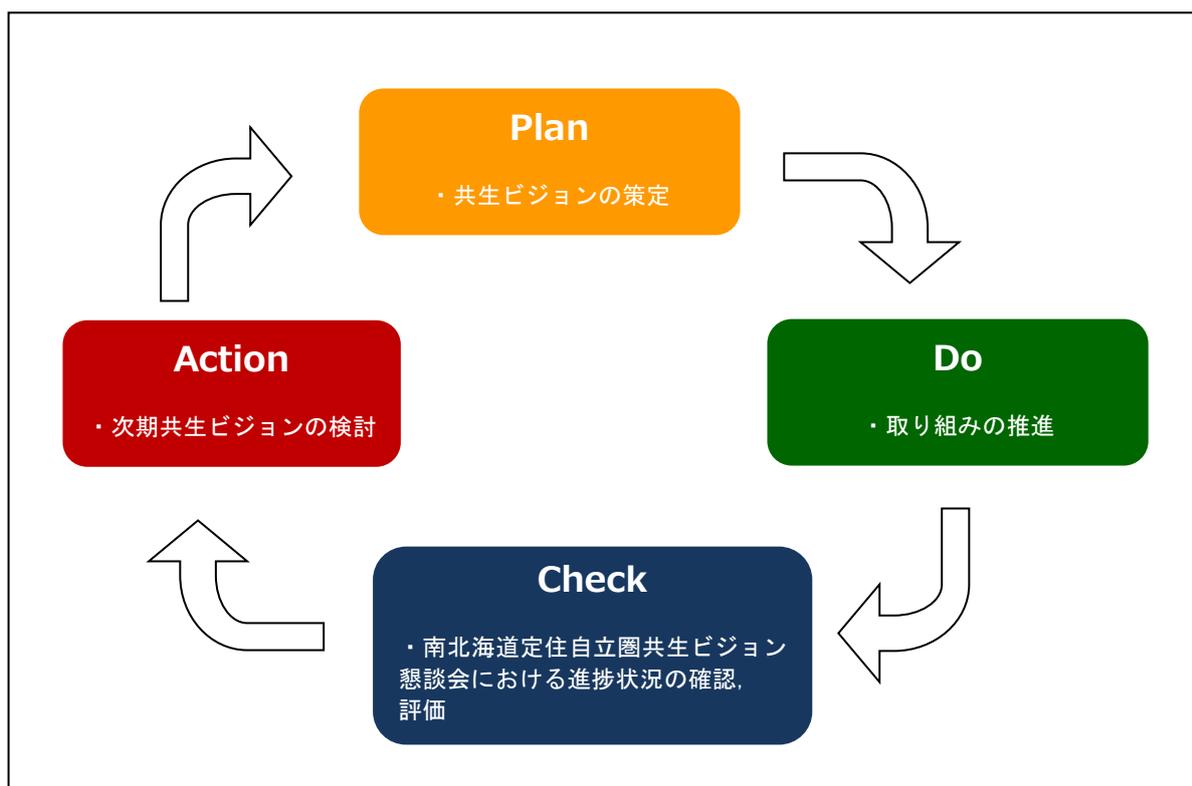
事業名	職員研修に係る情報共有および合同研修の実施					関係市町
事業概要	圏域全体で職員研修に係る情報を共有するとともに、圏域市町職員の資質向上を図るための合同研修を実施する。					全市町
効果	圏域市町職員の資質向上に資する機会の増大が図られる。					
事業費 (千円)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
	1,028	1,994	1,956	1,956	1,956	8,890
補助事業等の名称等	-					
役割分担の考え方	函館市が研修にかかる情報を発信し、事業に参加する市町が必要な経費を負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指 標	基準値	現状値	目標値		
	合同研修の参加者 総数	295人 2017(H29)年度	92人 2019(R1)年度	295人 2023(R5)年度		

事業名	高等教育機関との連携による地域マネジメント能力の向上					関係市町
事業概要	地域の市町の職員や住民等の参加のもと、中心市に所在する高等教育機関との連携による地域課題解決に向けた取り組みを実施することで、職員の地域マネジメント能力の向上を図る。					江差町
効果	圏域市町職員等の視野と知見を広げ、資質向上に資する機会の増大が図られる。					
事業費 (千円)	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
	159	580	580	580	580	2,479
補助事業等の名称等	-					
役割分担の考え方	事業に参加する市町が必要な経費を負担する。					
重要業績 評価指標 (KPI)	指 標	基準値	現状値	目標値		
	各プログラムにおける 地域職員等の平均 参加者数	35名 2017(H29)年度	38名 2019(R1)年度	50名 2023(R5)年度		

8 具体的取組に関する進捗状況の確認と評価

共生ビジョンの具体的取組の推進にあたっては、PDCA サイクル（Plan「計画」→Do「実行」→Check「点検・評価」→Action「改善」）に従い、南北海道定住自立圏共生ビジョン懇談会において、毎年、取り組みの進捗状況の確認を行い、共生ビジョンの期間が満了する際は、重要業績評価指標（KPI：Key Performance Indicator）等の達成状況等を踏まえて、次期の定住自立圏共生ビジョンを策定するものとします。

【南北海道定住自立圏共生ビジョンにおける PDCA サイクルの概念図】



9 共生ビジョン事業一覧

(1) 生活機能の強化に係る政策分野

ア 医療

(単位：千円)

事業名	夜間急病センターの運営支援					
市町名／事業費	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
函館市	26,258	26,382	30,255	30,255	30,255	143,405
北斗市	3,651	3,724	3,724	3,724	3,724	18,547
七飯町	2,238	2,264	2,264	2,264	2,264	11,294
合計	32,147	32,370	36,243	36,243	36,243	173,246

(単位：千円)

事業名	ドクターヘリの運航支援					
市町名／事業費	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
函館市	15,739	16,152	16,152	16,152	16,152	80,347
北斗市	2,609	2,508	2,508	2,508	2,508	12,641
松前町	9,014	2,492	2,492	2,492	2,492	18,982
福島町	2,384	2,292	2,292	2,292	2,292	11,552
知内町	2,351	2,281	2,281	2,281	2,281	11,475
木古内町	2,416	2,319	2,319	2,319	2,319	11,692
七飯町	2,512	2,395	2,395	2,395	2,395	12,092
鹿部町	2,384	2,292	2,292	2,292	2,292	11,552
森町	2,512	2,405	2,405	2,405	2,405	12,132
八雲町	2,512	2,405	2,405	2,405	2,405	12,132
長万部町	2,339	2,281	2,281	2,281	2,281	11,463
江差町	2,609	2,508	2,508	2,508	2,508	12,641
上ノ国町	2,416	2,308	2,308	2,308	2,308	11,648
厚沢部町	2,377	2,308	2,308	2,308	2,308	11,609
乙部町	2,339	2,281	2,281	2,281	2,281	11,463
奥尻町	2,384	2,319	2,319	2,319	2,319	11,660
今金町	2,448	2,389	2,389	2,389	2,389	12,004
せたな町	2,512	2,400	2,400	2,400	2,400	12,112
合計	63,857	56,335	56,335	56,335	56,335	289,197

(単位：千円)

事業名	二次救急医療体制の確保・維持					
市町名／事業費	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
函館市	42,698	42,689	42,689	42,689	42,689	213,454
北斗市	4,601	4,658	4,658	4,658	4,658	23,233
七飯町	2,820	2,832	2,832	2,832	2,832	14,148
合計	50,119	50,179	50,179	50,179	50,179	250,835

(単位：千円)

事業名	脳疾患救急搬送体制の運営支援					
市町名／事業費	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
函館市	-	-	-	-	-	-
江差町	6,200	6,200	6,200	6,200	6,200	31,000
上ノ国町	5,000	7,000	7,000	7,000	7,000	33,000
厚沢部町	4,400	6,400	6,400	6,400	6,400	30,000
乙部町	4,400	6,400	4,400	4,400	4,400	24,000
合計	20,000	26,000	24,000	24,000	24,000	118,000

(単位：千円)

事業名	医療情報共有化の推進					
市町名／事業費	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
函館市	-	-	-	-	-	-
江差町	3,138	3,146	3,146	3,146	3,146	15,722
上ノ国町	1,627	1,657	1,657	1,657	1,657	8,255
厚沢部町	8,185	7,023	7,023	7,023	7,023	36,277
乙部町	1,387	753	1,413	1,413	1,413	6,379
奥尻町	31,520	85,536	7,436	7,436	7,436	139,364
合計	45,857	98,115	20,675	20,675	20,675	205,997

(単位：千円)

事業名	救急救命士病院実習の実施					
	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
函館市	6,195	6,978	7,066	7,066	7,090	34,395
北斗市	378	694	694	694	694	3,154
松前町	518	402	402	402	402	2,126
福島町	198	222	222	222	222	1,086
知内町	315	580	580	580	580	2,635
木古内町	231	231	231	231	231	1,155
七飯町	347	184	408	408	366	1,713
鹿部町	290	343	343	351	359	1,686
森町	326	367	314	314	314	1,635
八雲町	393	520	520	520	520	2,473
長万部町	247	351	351	351	351	1,651
江差町	361	390	390	390	390	1,921
上ノ国町	191	451	451	451	451	1,995
厚沢部町	701	226	226	226	226	1,605
乙部町	204	265	204	204	204	1,081
奥尻町	180	180	240	180	240	1,020
今金町	1,044	278	278	278	278	2,156
せたな町	1,714	2,392	2,392	2,392	2,392	11,282
合計	13,833	15,054	15,312	15,260	15,310	74,769

(単位：千円)

事業名	理学療法士および作業療法士の養成支援＜令和2年度新規登載事業＞					
市町名／事業費	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
函館市		2,700	3,700	4,700	4,700	15,800
北斗市		-	-	-	-	-
松前町		1,200	1,200	1,200	1,200	4,800
福島町		-	-	-	-	-
知内町		-	-	-	-	-
木古内町		-	-	-	-	-
七飯町		-	-	-	-	-
鹿部町		-	-	-	-	-
森町		-	-	-	-	-
八雲町		-	-	-	-	-
長万部町		-	-	-	-	-
江差町		-	-	-	-	-
上ノ国町		2,040	2,040	2,040	2,040	8,160
厚沢部町		-	-	-	-	-
乙部町		-	-	-	-	-
奥尻町		-	-	-	-	-
今金町		-	-	-	-	-
せたな町		-	-	-	-	-
合計		5,940	6,940	7,940	7,940	28,760

イ 福祉

(単位：千円)

事業名	障害者地域生活支援事業の推進					
市町名／事業費	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
函館市	90,502	96,738	96,738	96,738	96,738	477,454
北斗市	10,067	11,236	11,236	11,236	11,236	55,011
七飯町	6,063	6,537	6,537	6,537	6,537	32,211
合計	106,632	114,511	114,511	114,511	114,511	564,676

ウ 産業振興

(単位：千円)

事業名	広域観光推進に係るプロモーション活動およびイベント等の実施					
	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
市町名／事業費						
函館市	82,565	59,246	76,297	76,297	76,297	370,702
北斗市	11,471	10,109	10,109	10,109	10,109	51,907
松前町	6,821	3,096	7,262	7,262	7,262	31,703
福島町	119	119	119	119	119	595
知内町	135	135	135	135	135	675
木古内町	1,878	1,618	1,878	1,878	1,878	9,130
七飯町	155	-	154	154	154	617
鹿部町	1,612	1,612	1,612	1,612	1,612	8,060
森町	1,620	1,470	1,470	1,470	1,470	7,500
八雲町	-	-	-	-	-	-
長万部町	67	67	67	67	67	335
江差町	4,279	4,658	4,658	4,658	4,658	22,911
上ノ国町	2,339	2,205	2,205	2,205	2,205	11,159
厚沢部町	1,065	1,875	1,875	1,875	1,875	8,565
乙部町	2,598	3,334	2,218	2,218	2,218	12,586
奥尻町	3,605	2,905	3,483	3,483	3,483	16,959
今金町	5,595	4,172	3,787	3,787	3,787	21,128
せたな町	1,772	778	778	778	778	4,884
合計	127,696	97,399	118,107	118,107	118,107	579,416

(単位：千円)

事業名	滞在型観光メニューの共同開発					
	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
函館市	1,588	1,800	1,800	1,800	1,800	8,788
北斗市	793	1,019	1,019	1,019	1,019	4,869
松前町	809	824	-	-	-	1,633
福島町	81	81	81	81	81	405
知内町	65	65	65	65	65	325
木古内町	782	782	782	782	782	3,910
七飯町	1,650	1,650	1,650	1,650	1,650	8,250
鹿部町	-	-	-	-	-	-
森町	-	-	-	-	-	-
八雲町	-	-	-	-	-	-
長万部町	-	-	-	-	-	-
江差町	-	-	-	-	-	-
上ノ国町	572	2,602	2,602	2,602	2,602	10,980
厚沢部町	2,706	200	200	200	200	3,506
乙部町	87	87	87	87	87	435
奥尻町	565	265	587	587	587	2,591
今金町	-	-	-	-	-	-
せたな町	1,000	-	-	-	-	1,000
合計	10,698	9,375	8,873	8,873	8,873	46,692

(単位：千円)

事業名	販路開拓支援					
市町名／事業費	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
函館市	23,900	23,343	23,576	23,576	23,576	117,971
北斗市	-	-	-	-	-	-
松前町	-	-	-	-	-	-
福島町	-	-	-	-	-	-
知内町	-	-	-	-	-	-
木古内町	-	-	-	-	-	-
七飯町	-	-	-	-	-	-
鹿部町	-	-	-	-	-	-
森町	-	-	-	-	-	-
八雲町	-	-	-	-	-	-
長万部町	-	-	-	-	-	-
江差町	-	-	-	-	-	-
上ノ国町	-	-	-	-	-	-
厚沢部町	-	-	-	-	-	-
乙部町	-	-	-	-	-	-
奥尻町	-	-	-	-	-	-
今金町	-	-	-	-	-	-
せたな町	-	-	-	-	-	-
合計	23,900	23,343	23,576	23,576	23,576	117,971

(単位：千円)

事業名	創業支援の推進					
市町名／事業費	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
函館市	7,972	13,000	13,000	13,000	13,000	59,972
北斗市	2,117	2,117	2,117	2,117	2,117	10,585
七飯町	1,216	1,216	1,216	1,216	1,216	6,080
合計	11,305	16,333	16,333	16,333	16,333	76,637

(単位：千円)

事業名	先進技術の開発・利用促進および高度技術の普及支援					
市町名／事業費	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
函館市	92,309	100,325	104,194	104,194	104,194	505,216
北斗市	-	-	-	-	-	-
松前町	-	-	-	-	-	-
福島町	-	-	-	-	-	-
知内町	-	-	-	-	-	-
木古内町	-	-	-	-	-	-
七飯町	-	-	-	-	-	-
鹿部町	-	-	-	-	-	-
森町	-	-	-	-	-	-
八雲町	-	-	-	-	-	-
長万部町	-	-	-	-	-	-
江差町	-	-	-	-	-	-
上ノ国町	-	-	-	-	-	-
厚沢部町	-	-	-	-	-	-
乙部町	-	-	-	-	-	-
奥尻町	-	-	-	-	-	-
今金町	-	-	-	-	-	-
せたな町	-	-	-	-	-	-
合計	92,309	100,325	104,194	104,194	104,194	505,216

(2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

ア 地域公共交通

(単位：千円)

事業名	第三セクター鉄道への支援					合計
	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	
市町名／事業費						
函館市	6,950	9,332	9,332	9,332	9,332	44,278
北斗市	17,691	21,677	21,677	21,677	21,677	104,399
木古内町	6,950	8,516	8,516	8,516	8,516	41,014
合計	31,591	39,525	39,525	39,525	39,525	189,691

(単位：千円)

事業名	生活バス路線の維持・確保					合計
	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	
市町名／事業費						
函館市	22,963	22,526	22,526	22,526	22,526	113,067
北斗市	1,910	1,910	1,910	1,910	1,910	9,550
松前町	32,207	30,695	28,915	35,414	28,195	155,426
福島町	11,900	5,900	3,400	11,900	3,400	36,500
知内町	13,604	10,121	7,621	16,017	7,621	54,984
木古内町	5,943	2,500	-	5,943	-	14,386
七飯町	3,329	4,000	4,000	4,000	4,000	19,329
鹿部町	7,698	7,698	7,698	7,698	7,698	38,490
森町	8,031	8,005	7,000	7,000	7,000	37,036
八雲町	5,429	4,747	4,747	4,747	4,747	24,417
長万部町	3,344	3,600	3,600	3,600	3,600	17,744
江差町	15,650	15,650	15,650	15,650	15,650	78,250
上ノ国町	17,332	23,000	23,000	23,000	23,000	109,332
厚沢部町	11,718	11,741	11,741	11,741	11,741	58,682
乙部町	3,650	3,650	3,446	3,446	3,446	17,638
奥尻町	-	-	-	-	-	-
今金町	9,411	9,617	9,617	9,617	9,617	47,879
せたな町	28,559	24,845	24,845	23,130	23,130	124,509
合計	202,678	190,205	179,716	207,339	177,281	957,219

(単位：千円)

事業名	J R 函館本線沿線の地域公共交通の維持・確保<令和2年度新規登載事業>					
市町名／事業費	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
函館市		2,571	-	-	-	2,571
北斗市		1,159	-	-	-	1,159
七飯町		1,320	-	-	-	1,320
鹿部町		798	-	-	-	798
森町		1,374	-	-	-	1,374
八雲町		1,183	-	-	-	1,183
長万部町		1,054	-	-	-	1,054
合計		9,459	-	-	-	9,459

イ 道路等の交通インフラの整備

(単位：千円)

事業名	道路整備期成会活動の促進					
市町名／事業費	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
函館市	4,214	4,206	4,206	4,206	4,206	21,038
北斗市	769	770	770	770	770	3,849
松前町	310	312	312	312	312	1,558
福島町	261	261	261	261	261	1,305
知内町	274	274	274	274	274	1,370
木古内町	275	277	277	277	277	1,383
七飯町	460	466	466	466	466	2,324
鹿部町	224	224	224	224	224	1,120
森町	410	406	407	407	407	2,037
八雲町	459	462	462	462	462	2,307
長万部町	301	300	300	300	300	1,501
江差町	123	123	123	123	123	615
上ノ国町	2,195	2,195	2,195	2,195	2,195	10,975
厚沢部町	167	222	222	222	222	1,055
乙部町	49	49	49	49	49	245
奥尻町	24	24	24	24	24	120
今金町	49	49	49	49	49	245
せたな町	67	67	67	67	67	335
合計	10,631	10,687	10,688	10,688	10,688	53,382

ウ 地域内外の住民との交流・移住促進

(単位：千円)

事業名	留学生等受入体制の整備					
	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
市町名／事業費						
函館市	9,612	11,000	11,000	11,000	11,000	53,612
北斗市	58	189	189	189	189	814
松前町	323	324	324	324	324	1,619
福島町	-	-	-	-	-	-
知内町	-	-	-	-	-	-
木古内町	-	-	-	-	-	-
七飯町	10,222	9,735	9,735	9,735	9,735	49,162
鹿部町	-	-	-	-	-	-
森町	-	-	-	-	-	-
八雲町	-	-	-	-	-	-
長万部町	-	-	-	-	-	-
江差町	-	-	-	-	-	-
上ノ国町	-	-	-	-	-	-
厚沢部町	-	-	-	-	-	-
乙部町	45	45	45	45	45	225
奥尻町	-	-	-	-	-	-
今金町	5,287	600	5,287	600	5,287	17,061
せたな町	-	-	-	-	-	-
合計	25,547	21,893	26,580	21,893	26,580	122,493

(単位：千円)

事業名	外国人観光客誘客による地域国際化					
	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
函館市	14,977	15,316	15,316	15,316	15,316	76,241
北斗市	-	1,705	-	1,705	-	3,410
松前町	1,255	1,255	945	945	1,430	5,830
福島町	227	-	-	-	-	227
知内町	-	-	-	-	-	-
木古内町	-	-	-	-	-	-
七飯町	1,797	1,797	4,150	1,797	1,797	11,338
鹿部町	357	357	357	357	357	1,785
森町	-	-	-	-	-	-
八雲町	-	-	-	-	-	-
長万部町	-	-	-	-	-	-
江差町	-	-	-	-	-	-
上ノ国町	-	-	-	-	-	-
厚沢部町	-	-	-	-	-	-
乙部町	-	-	-	-	-	-
奥尻町	-	-	-	-	-	-
今金町	-	-	-	-	-	-
せたな町	-	-	-	-	-	-
合計	18,613	20,430	20,768	20,120	18,900	98,831

(3) 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野

ア 人材育成等

(単位：千円)

事業名	職員研修に係る情報共有および合同研修の実施					
市町名／事業費	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
函館市	355	595	595	595	595	2,735
北斗市	23	42	42	42	42	191
松前町	7	30	30	30	30	127
福島町	6	14	14	14	14	62
知内町	21	21	21	21	21	105
木古内町	-	-	-	-	-	-
七飯町	7	20	20	20	20	87
鹿部町	42	42	42	42	42	210
森町	29	84	50	50	50	263
八雲町	-	-	-	-	-	-
長万部町	31	74	74	74	74	327
江差町	100	218	218	218	218	972
上ノ国町	90	20	20	20	20	170
厚沢部町	-	75	75	75	75	300
乙部町	34	195	191	191	191	802
奥尻町	228	339	339	339	339	1,584
今金町	30	30	30	30	30	150
せたな町	25	195	195	195	195	805
合計	1,028	1,994	1,956	1,956	1,956	8,890

(単位：千円)

事業名	高等教育機関との連携による地域マネジメント能力の向上					
市町名／事業費	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
函館市	-	-	-	-	-	-
江差町	159	580	580	580	580	2,479
計	159	580	580	580	580	2,479

市町別総事業費

(単位：千円)

市町名／事業費	2019(R1)	2020(R2)	2021(R3)	2022(R4)	2023(R5)	合計
函館市	448,797	454,899	478,442	479,442	479,466	2,341,046
北斗市	56,138	63,517	60,653	62,358	60,653	303,319
松前町	51,264	40,630	41,882	48,381	41,647	223,804
福島町	15,176	8,889	6,389	14,889	6,389	51,732
知内町	16,765	13,477	10,977	19,373	10,977	71,569
木古内町	18,475	16,243	14,003	19,946	14,003	82,670
七飯町	32,816	34,416	35,827	33,474	33,432	169,965
鹿部町	12,607	13,366	12,568	12,576	12,584	63,701
森町	12,928	14,111	11,646	11,646	11,646	61,977
八雲町	8,793	9,317	8,134	8,134	8,134	42,512
長万部町	6,329	7,727	6,673	6,673	6,673	34,075
江差町	32,619	33,473	33,473	33,473	33,473	166,511
上ノ国町	31,762	43,478	43,478	43,478	43,478	205,674
厚沢部町	31,319	30,070	30,070	30,070	30,070	151,599
乙部町	14,793	17,059	14,334	14,334	14,334	74,854
奥尻町	38,506	91,568	14,428	14,368	14,428	173,298
今金町	23,864	17,135	21,437	16,750	21,437	100,623
せたな町	35,649	30,677	30,677	28,962	28,962	154,927
合計	888,600	940,052	875,091	898,327	871,786	4,473,856

南北海道定住自立圏共生ビジョン懇談会 委員名簿

(敬称略)

関連分野	氏名	所属・職名	市町名
学識経験者	古地 順一郎	北海道教育大学函館校 国際地域学科 准教授	函館市
医療	吉崎 浩隆	函館市医師会 事務局長	函館市
産業振興	山田 義則	函館物産協会 事務局長	函館市
地域 公共交通	渡部 浩典	函館地区バス協会 事務局長	函館市
交流移住	孔 麗	北海道教育大学函館校 国際地域学科 教授	函館市
交流移住	金谷 栄一郎	福島町千軒地域活性化実行委員会 事務局長	福島町
産業振興	松崎 光一	知内商工会 事務局長	知内町
産業振興	對馬 光弘	森町さわら商工会 理事	森町
産業振興	伊藤 綱咲	八雲商工会 事務局長	八雲町
産業振興	浅見 尚資	北海道江差観光みらい機構 事務局長	江差町
産業振興	八十科 剛	(株)ワカサ商事 代表取締役	上ノ国町
産業振興	尾山 浩崇	厚沢部町観光協会 事務局長	厚沢部町

(令和2年(2020年)5月16日現在)

第2次北海道定住自立圏共生ビジョン

平成31年 1月28日策定

令和 元年10月28日変更

令和 2年11月 9日変更

北海道定住自立圏共生ビジョン懇談会

(事務局：函館市企画部国際・地域交流課)